

第1回 資本主義経済の再構築としてのSDGs研究会 (2022年2月9日開催)

資本主義経済の再構築とSDGs-人新世の経済システムを考える-

駒村康平 氏 (主査)

■SDGsと資本主義経済の再構築～この研究会で議論していきたいこと～

「資本主義経済の再構築」というタイトルで、この研究会を設定しました。SDGsや地球の「惑星の限界」の話は皆さんにも共通する認識ではないかと思います。この研究会で議論をしていく際のキーワードとして、SDGsの推進、地球の惑星限界度、脱炭素化、デカップリング、資本主義の非物質化、産業構造の転換、カーボンプライシング、サーキュラー経済、デジタル経済などがあげられます。これらのキーワードについて、先生方のご知見を整理していただきたいと思います。今、議論されているような新しい資本主義経済とは違う構想を世に問うことになると思います。

■経済成長の再定義と人新世の資本主義

私が神経経済学などを考えているなかで、デジタル経済、あるいはデジタル監視資本主義ともいわれている仕組みが出てきます。サーキュラー経済が進んでいく一つのキーワードとして、デジタル経済化があります。つまり、従来モノを所有して消費する発想から、機能を所有して消費することがデジタル経済によって可能になってきたということです。環境に負荷をかけない経済成長が可能ではないのかという議論もあると思います。

一方で、デジタル経済というのは、デジタル監視資本主義ともいわれているように、人間の行動をモニターして、Amazonやいろんなところから「これ、いりませんか」と飽くなき、足りることを感じさせないような消費の刺激を常に与え続けられています。神経経済学を研究すると、結局、消費は欲望を発露するだけですが、欲望はドーパミンの刺激に過ぎないということです。消費しても、消費しても、ドーパミンが刺激され続ける間は全然飽和しないわけです。これはデジタル経済の負の部分であると思います。

この問題をどう考えていけばよいのでしょうか。ドーパミン刺激が欲望の発露であり、それが消費ということになれば、際限ない消費が経済成長なのかどうか、考えなければなりません。私は経済成長を否定しませんし、社会政策の一つのテーマとして産業革命が人類に何をもたらしたのか、光の部分もあれば、影の部分もあります。これだけの成長は資本主義経済の成果と言えるでしょうし、経済成長を評価できる部分でもあると思います。一方で、それが本当に人類に幸福をもたらしたのかは甚だ疑問になってきます。そこで幸福論について、人類の進歩と幸福を議論していきたいと思っています。

最後は、経済指標の見直しのような大きな議論になると思います。プロテスタンティズムと資本主義が産業革命のバックグラウンドにあって、資本主義のスタート地点におけるモノの考え方の変化は非常に大きかったと感じています。ただ、私は神経経済学に数年、集中しているわけですが、SDGs と経済学がつながる部分としては、仏教経済学と言われている部分に大きな関連性があるのではないかと、個人的に関心を持っているところです。経済成長の測り方が今の考え方で良いのかは極めて疑問になっていて、経済成長をどう考えていくのかを深めてお話ししたいと思っています。

(文責：全労済協会)